

## 学校がくれた出会い

小学四年 菅生 紗来

「学校楽しみだな。」

わたしは、一年生のころ自分一人だと思っていたバスでいかわいいキーホルダーをつけたお姉さんがいました。その日がはじめての学校だったので、同じバスでから乗る人がいて安心しました。次の日もその次の日もそのお姉さんがいて、仲良くなりいつしょに行きたいくつたので、自分から話しかけてみました。そしたらお姉さんが、

「そのせいふくかわいいね。」

と言つてくれました。だから、自分の学校をほりに思えました。同じバスでから乗つて、お姉さんと友達になつたことを家族に話しました。そしたらお母さんから、

「心配していたからよかつた。」

と言われたので、心配してくれていたんだと思うとむねが、温かくなりました。

しょう来のゆめについてお姉さんと話していたら、

「わたしは、かんじになることがゆめなんだ。」

と教えてくれました。でも、行きたい病院のしけんに合格したら今行つて いるバスとは、反対方面になつてしまつと言わされたので、おつれんしたいという気持ちはあるけど、同じバスで行きたいという気持ちもあつたので、ふくせつでした。もし合かくしたら、三年生までしかいっしょに行けないと言われて、ますます今の時間を大切にしなきやと思つようになり、学校に行く時が毎日の楽しみになりました。

わたしは四年生になりました。お姉さんのように年下の子を安心させてあげられるように自分から声をかけてあげるようにしています。お姉さんはゆめをかなえて別々のバスになつてしまつたけど、反対側のバスでいにいるお姉さんに手をふるのが毎日の楽しみです。